

## 2006年度の事業活動を終えて

海蔵地区人権・同和教育推進協議会  
会長 川 森 一成

海蔵地区人権・同和教育推進協議会は、活動テーマを“高齢者問題”に決めて取り組んできました。

今年度のスタートにあたり前号で申し上げたように、かねてより“少子高齢社会”は、確実に到来することが間違いないとされ、それが現実になってきました。その対応策の第一歩として、昨年4月1日から改正介護保険法や高齢者虐待防止法などが相次いで施行されました。

これらの動きの基本となっている考え方は、逆三角形の人口構成の社会を支えるためには、自助・共助と公助がうまく機能することがカギとなるということです。

すなわち家族の支えあいの自助、ボランティア活動などの地域での支えあいや見守り（地域福祉活動）などの共助が基本にあり、それが不可能なケースについては、公的福祉サービスである公助がその役割を果たす仕組みとしていることです。

最近の地域の状況を見ますと高齢者の

みの居住者が確実に増えていることです。相談相手がなく困りごとを自分たちだけで抱え込んでいる姿も見られるのではないのでしょうか。

昨年4月からの改正で、高齢者介護や認知症、財産管理などの高齢者福祉相談のワンストップ窓口として地域包括支援センターが作られ、出先機関として地域には在宅介護支援センターも置かれています。

私たちは、高齢者の人権を守りたいという願いから、まず、このような動きを知っていただき、あわせて、社会の仕組みをどのように活用すれば良いかを考えていただくための学習活動を進めてきました。

これからも、様々な人権課題をテーマに取り上げ、日本国憲法で保障されている基本的人権を守るために欠くことのできない知識の提供と具現化に向けて共に学び合う機会を設けて参りたいと思います。積極的な参加と協力をお願い致します。

## 「こども人権ひろば」開催して “命の尊さ”を伝えました

12月10日（土）に野田公会所で2回目となる「こども人権ひろば」を開催しました。

本年度になってからも、虐待、いじめ、自死など子どもたちに関わる悲しい事件が、毎日のように新聞やテレビで報道されました。

「人権」って何？大人も子どもも「人権」という言葉を口にすることはあっても、いざ「人権とは？」とたずねられたら、すぐこたえることができないように思います。

子どもたちと人権について勉強する時、「人権とは、人間が本来持っている、あるいは大切にしている『思いやり』『優しさ』のことです。」と説明することがあります。お互いの気持を理解することが、人権学習なのかと感じています。では、『思いやり』の心を、どのように子どもたちに教えたらよいのでしょうか？それは、私たち大人が、子どもたち一人ひとりに接するとき、子どもの心に共感することで育まれるものだと思うのです。例えば、転んでしまった子どもがいたとしたら、「痛かったね。大丈夫？」と声をかける。困っている人や苦しんでいる人に、「大丈夫ですか？」と声をかけ、支える姿を見せていく。「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉をたくさ

んささやく。そんな当たり前に思える行動が、実は大切なのだと感じています。『思いやり』の心は、子どもの感性を磨くことで育まれるのではないのでしょうか？

子どもたちの感性を揺さぶるために、「子ども人権ひろば」では、人権紙芝居や人権啓発ビデオを使って人権教室を開催しました。『ふしぎなシーソー』という紙芝居を、海蔵学童保育所の3年生の子どもたちに読んでもらいました。誰が乗ってもつり合ってしまうシーソーに、みんなは驚きました。「壊れているからだよ？」とつぶやきました。最後に、お相撲さんと女の人が乗り、女の人の方に傾いたとき、子どもたちは「どうして？」と揺さぶられました。女の人のお腹に赤ちゃんがいて『命の数』の多い方に傾くことがわかったとき、みんなの心は、きっと、熱くなったのではないのでしょうか？

一人でも多くの子どもたちに、一人ひとりの命は、みんな同じで大切であることを伝えたい！そんな熱い思いで、「こども人権ひろば」を開催しました。

参加して下さったみなさん！協力していただいた多くのみなさんに、心から感謝いたします。ありがとうございました。

人権擁護委員 上野尚子



人権紙芝居「ふしぎなシーソー」



人権啓発ビデオ「やさしいオオカミ」

### 子どもの人権専門委員会からのメッセージ

#### 【子どもたちへ】

すべての子どもたちは、生きる権利、のびのび元気に生活する権利を持っています。子どもには虐待から守られる権利があります。あなたの命は、とても大切なものです。あなたがいまそこに生きているということ、そのことが、家族、友だち、社会にとって何より大切に幸せなことなのです。でも、もし、いじめにあったとき、悲しい気持ちになったときは、勇気を出して、「私を助けて！」とSOS信号を送ってください。わたしたち「子ども人権専門委員」はいつでもみなさんの味方です。

#### ひとりでなやまず電話してね

— 子どもの人権110番 —

0570-070-110

法務局・地方務局／子ども人権専門委員

#### 【保護者のみなさんへ】

どんな小さな子どもでも、一人ひとりが幸せに生きる権利を持っています。一人の人間として、最大限尊重されなければなりません。親は子どもを守り、育てる責任があります。子どもに暴力をふるったりしてはいけません。「いのちの大切さ」を親から子へ伝えていきましょう。

#### 【地域のみなさんへ】

近所で、子どもの不自然な泣き声が聞こえるとき、それは「虐待」の兆候かもしれません。気がついたことがあったら、すぐに市役所児童福祉課、児童相談所や保健所、民生児童委員、人権擁護委員に連絡して下さい。連絡した人の名前は決して明らかにされません。もし、虐待の事実がなかったとしても、責任を問われることは一切ありません。何より早期発見が重要です。地域のみなで、子どもたちを守っていきましょう。

### 活動短信

#### ◆「地区懇談会」を開催◇

今年度は、映画「ぬくもりの彩（いろ）」を鑑賞したあと、引き続きグループに分かれて高齢者問題について自由に話し合っていたいただきました。

参加者のみなさんから過去の体験談や、現に、家族の高齢者介護をしている方からの苦労話や高齢者問題も同和問題も根っこは同じであることなど感想や意見が活発に出されました。

特に、高齢者問題については、お互いについてかは自分の身に関わってくるからだからと、真剣に聞き入ったり質問したりして有意義な時間を過ごしていただきました。

会場設営や、懇談会の運営に自治会のみなさん、委員の皆さんには大変お世話になり、誠にありがとうございました。

#### ◆「人権を考える集い」を開催◇

10月7日（土）午後1時30分から、講師に四日市市北包括支援センターの鈴木廣子センター長をお迎えして、「少子高齢社会をどう乗り切るか～介護支援の現場から思うこと～」をテーマにして海蔵小学校体育館で開催しました。約80名の皆さんが参加され熱心に講演を聴いていただきました。ますます高齢化が進む中で、これからどのように暮らしていけばよいか、家族の介護や認知症になった場合の相談方法、介護保険制度や高齢者医療などの現状についても事例をまじえてやさしく説明していただきました。

これからの高齢社会を乗り切るためには、何もかも行政頼みでなく、まずは家族でやれることは何かを見極めること、地域のみなさんとの共助が大切なことなどを、学ぶことができました。

参加された皆様からは、大変参考になったという感想が多く寄せられました。

委員の皆様には、お忙しい中、集会運営にご協力くださいまして誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

#### ◆「世界人権デー記念映画鑑賞会」・「こども人権ひろば」を開催◇

12月10日の午後1時30分から、野田公会所において、「人権デー」の行事として委員研修会を兼ねた「映画鑑賞会」と、「こども人権ひろば」を開催しました。

「映画鑑賞会」は「父と暮らせば」（キャスト：宮沢りえ、原田芳雄、浅野忠信）を上映、広島原爆を背景に描く、心温まる父と娘の物語で、原爆の恐ろしさと残酷性をアピールし、「原爆許すまじ」を訴えるものでした。

「こども人権ひろば」は、人権ビデオの上映、人権紙芝居に加えて、ペンシルパルーンやボンボンクラフト、新聞紙を使用した弓矢作りなどの盛りだくさんの催しで、参加された子ども達に人権の大切さを呼びかけていただきました。（詳細は2～3ページ）

会場をお借りした地元の自治会ならびに委員の皆様方及び自主的にご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。